

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、平成 30 年度までに全教科で到達目標を明確にしたシラバスを完成させ、生徒に対して明確な道標を提供する

また、新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、平成 31 年度までに「アクティブ・ラーニング」と大学進学を両立をめざした「高津授業メソッド」を完成させる

* 生徒向け授業アンケートの項目 8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H28：3.2/4 点満点）を平成 29 年度以降も 3.2 以上で維持する

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

* 難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生/H28：73 人）を、平成 31 年度までに 80 人以上とし、一層の増加に努める

* 国立大学への現役生の合格者数（H28：139 人）を、平成 31 年度まで 130 人以上で維持し、一層の増加に努める

ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

* 実用英語技能検定試験 2 級合格者数（H28：112 人）を、平成 31 年度まで 100 人以上で維持し、一層の増加に努める

* TOEFL iBT（チャレンジ）のスコア取得（H28：60 点以上 14 人/78 人）を平成 30 年度までにステージ 2（対象人数の 10%以上が 80 点以上、20%以上が 60～79 点）に引きあげ、平成 31 年度も維持する

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

* 文理学科 2 年生の「課題研究」に対する満足度を高めるとともに、普通科生徒の参加数（H28：約 150 人）を、平成 31 年度まで 150 人以上で維持し続ける

イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

* 1・2 年生の文理学科の外部連携事業への延べ参加者数（H28：1,596 人）を、平成 31 年度まで 1,000 人以上で維持し続ける

ウ 海外の科学先進校等との交流の推進

海外の科学先進校等との交流日数を増やすとともに、共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる

* 交流先の拡大を図るとともに、交流日数（H28 年度：9 日）を平成 31 年度までに 10 日以上に増加させる

(3) 進路指導をさらに充実させる

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1 年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2 年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

* 1・2 年生とも訪問先（H28：1 年生 63 カ所、2 年生 52 カ所）を、平成 31 年度まで 50 カ所以上、生徒満足度（H28：93%）を 90%以上で維持する

イ 3 年間を見据えたキャリア教育の充実

学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

* 学校教育自己診断の進路指導への満足度（H28：生徒 80%・保護者 75%）を、平成 31 年度までにともに 80%以上（「わからない」を除く）に引きあげる

2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

* 学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率（H28：生徒 80% 保護者 80%）を、平成 31 年度までに 85%以上に引きあげる

* 部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H28：100%）を、平成 31 年度まで 90%以上で維持し続ける

(2) 規律・規範意識の向上

* 年間の遅刻者総数（H28：2,329 件）を、平成 31 年度までに 2,000 件以下とする

(3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

* 部活動加入率（H28：86%）を、平成 31 年度まで 85%以上で維持し、一層の増加に努める

* 生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（H28：62%）を、平成 31 年度までに 70%以上に引きあげる

(4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

* 生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く/H28：81%）を、平成 31 年度まで 80%以上で維持し、一層の向上に努める

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 教科指導力の向上

* 生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H28：3.2/4 点満点）を、平成 31 年度まで 3.2 以上で維持し続ける

(2) 研修の充実

* 教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H28：79%）を、平成 31 年度までに 80%以上とし、維持し続ける

(3) ミドルリーダーの育成と経験の少ない教員のさらなる資質向上

* 教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H28：75%）を、平成 31 年度まで 70%以上で維持し続ける

(4) 学校の組織的運営

* 教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（H28：60%）を、平成 31 年度までに 70%以上とする

(5) ICT活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実、校務の効率化及び情報共有

* 生徒向け学校教育自己診断の ICT 活用や実験・実習、体験的な教科指導に対する満足度（H28：90%）を、平成 31 年度まで 80%以上で維持し続ける

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

* 生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、クラブ員によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

(7) 社会全体の「働き方改革」の流れを踏まえた、(校内)安全衛生委員会機能のさらなる向上

* 教職員向け学校教育自己診断の「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」についての肯定率（H28：63%）を、平成 31 年度までに 70%以上とする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力をふまえて、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1)生徒のもつ学力を最大限引き出す ア. 魅力ある授業の実施(「高津授業メソッド」づくり (STAGE 1))</p> <p>イ. 英語運用能力 (四技能) の向上</p> <p>(2)海外の科学先進校等との交流促進 ア. 交流対象校の拡大と交流日数・内容の充実</p> <p>(3)進路指導をさらに充実させる ア. 体験型進路学習の一層の充実</p>	<p>(1) ア・新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、4月に、アクティブ・ラーニングの推進と大学進学実績の両立を可能とする「高津授業メソッド」の確立をめざした担当部署を立ちあげ、年内の教職員の意識のすり合わせ(大きな方向性の共有)ならびに基盤づくりを図る。(新規)</p> <p>イ・1・2年生を対象に、実用英語技能検定試験、TOEFLiBT(チャレンジ)等の受検を促進する。(継続・発展)</p> <p>(2) ア・交流対象校を増やす(台湾・ニュージーランドを予定)とともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。(新規)</p> <p>(3) ア・総合的な学習の時間を活用し、7月と10月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。(継続・発展) 1年生「職場訪問」 2年生「大学研究室訪問」</p>	<p>(1) ア・教員向け学校教育自己診断に「高津授業メソッド」の推進状況に関する項目を新設し、肯定率80%以上とする。</p> <p>イ・1・2年生全員に実用英語技能検定試験の受験を促し、英検2級合格者(H28:112人)を100人以上で維持する。 ・TOEFLiBT チャレンジのスコア取得をステージ2/2年次(対象人数の10%以上が60点以上、70%以上が40~59点)とする。</p> <p>(2) ア・交流先の増加(台湾・ニュージーランドを予定)、参加生徒の満足度90%以上とする。</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断での体験型進路学習に対する満足度(H28:93%)を90%以上で維持する。</p>	
2 豊かな心をはぐくみ、規律・規範の確立	<p>(2) 規律・規範意識の向上 ア. 基本的な生活習慣の定着</p> <p>(3) 生徒の自主活動の活性化 ア. 生徒自治会活動のさらなる活性化</p> <p>(4) ア. 保健室利用、教育相談体制の充実</p>	<p>(2) ア. 教員間で生徒指導方針を共有し、挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む(継続)</p> <p>(3) ア・スクールアイデンティティに基づき長年継続されてきた記念祭(文化祭・体育祭の一括実施)の分割実施初年度にあたり、教職員と生徒が一体となって実施体制及び運営体制を抜本的に見直し、新たな伝統創生を円滑に進めることで、本校ならではの自治会活動のさらなる活性化を図る。(新規)</p> <p>(4) ア・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。(継続・発展)</p>	<p>(2) ア. 遅刻者数(H28:2,329件)を2,000件以下にする。</p> <p>(3) ア・行事後の生徒の満足度(文化祭・体育祭の平均)を90%以上とする。 ・生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率(H28:62%)を5%以上引きあげる。</p> <p>(4) ア・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度(H28:81%)、保護者の学校への相談に対する満足度(H28:79%)を、ともに80%以上とする。</p>	

<p>3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立</p>	<p>(1)教科指導力の向上 ア.教科指導力の向上</p> <p>(3)ミドルリーダーの育成、経験の少ない教員の資質向上</p> <p>(7)安全衛生委員会の機能向上</p>	<p>(1) ア・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。(充実) ・生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。(継続)</p> <p>(3) ア・より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。(継続・充実)</p> <p>(7) ア・「働き方改革」の流れを念頭に、校内規約に基づき、教職員の安全及び健康の確保、ならびに快適な職場環境の形成の促進に努める。(充実)</p>	<p>(1) ア・生徒授業アンケート1～9全質問の平均値3.2以上を維持し、さらなる向上に努める。</p> <p>(3) ア・教員向け学校教育自己診断における、ミドルリーダーの育成等に関する肯定率(H28:75%)を70%以上で維持する。</p> <p>(7) ア・教職員向け学校教育自己診断における「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率(H28:63%)を65%以上に引きあげる。</p>	
----------------------------------	---	---	--	--